

## 第5回資源管理ワーキンググループ

### 議事録

- 1.日時：2017年5月8日月曜日 15時～17時
- 2.場所：三会堂ビルディング4階 4A会議室
- 3.参加委員：崎田座長、杉山委員、森口委員、白井委員、古澤委員、鈴木オブザーバー、勝野オブザーバー

#### 4.議事録

※議事録では、「ワーキンググループ」を「WG」、「ディスカッショングループ」を「DG」と記載しています。

事務局：それでは始めたいと思います。皆様本日はご多用の中お集まりくださりまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、「第5回資源管理WG」を開催いたします。まずはじめに、資源管理ワーキンググループの出席者につきまして、今回から内閣官房東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部事務局の岩川企画官に代わりまして、勝野参事官にオブザーバーとして参加いただくことになりました。勝野参事官、どうぞよろしく願いいたします。森口委員につきましては後のご予定があるということですので、16時20分頃に退席なさるということでございます。

本WGはメディアの皆様にも公開とさせていただいております。スチールの皆様は冒頭撮影のみということにさせていただきますが、ペン記者の皆様は会議傍聴可能とさせていただきますのでよろしくお願い致します。それでは開会にあたりまして崎田座長より一言ご挨拶をお願いいたします。

崎田座長：皆様お集まりいただきましてありがとうございます。このWGを前回開催させていただいたときは、持続可能性運営計画の第1版に関するパブリックコメントの後ということで、全体的なことに関してお話をいただいたかと思っております。それを基に、やはり第2版に向けて、かなり内容のところをしっかりと議論していかなければならない時期になってきましたので、ぜひ皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っています。やはりこの2時間という中ではなかなか深めるところまでは難しいかもしれませんが、そこについてはじっくりその後の課題として、しっかりと意見出し、課題出しをしていただくことを大事にいただければと思います。

なお、この間にあったこととして、組織委員会全体が取り組んでくださっていることですけれども、都市鉱山を活用したみんなのメダルプロジェクトというものを組織委員会の

方で決定され、4月から実施されている訳ですけれども、そのこと自体もやはり資源をしっかりと効率よく使うというたいへん大事な視点であり、資源管理 WG とも切っても切り離せない大事な内容ですので、ぜひ、そのことに関しても皆様の意見をお聞きしながら、しっかりと推進していけるように、必要なことは皆様と意見交換していければと思っています。いろいろご関係の方もいらっしゃるメンバーですので、またそれなりに意見をいただければありがたいと思います。それでは、今日の内容ということで進めていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

事務局：崎田座長ありがとうございました。本日は崎田座長を始め総勢5名の委員及びオブザーバーにご参加いただいております。それではプレスの皆様は冒頭撮影はここまでとなりますのでよろしくお願いいいたします。

それでは以降の議事進行につきましては崎田座長にお願いしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

崎田座長：よろしくをお願いします。それでは議事を進行させていただきますが、まず、今日の議事次第を見ていただければと思います。前回からの進捗状況の確認と、2番目は資源管理の進め方及び目標設定の考え方、そのあとが飲食提供に係る廃棄物の課題ということで、この2番と3番の意見交換についてしっかりと時間を使わせていただければと思います。あと、森口委員は早めに意見を言っていただくように進めていければと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、まず前回からの進捗状況ということで事務局からご説明いただき、質問などある方は言っていただくという形で進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

事務局：資料2を使って、前回からの進捗状況について説明。

崎田座長：ありがとうございます。この段階で質問等があればお話しいただければと思いますが、進めてよろしいでしょうか。進めていく中でまたあればお話しいただければと思います。恐らく次の議事2のところでも色々具体的なようになってくると思います。

それでは、資源管理の検討課題、資源管理の進め方と目標設定の考え方というところでお話ししたいと思います。具体的には組織委員会が考えている廃棄物の後利用や再資源化のスキームと、資源管理に係る目標設定についてご説明いただいて、今後この資源管理 WG においてどのようなことを話し合っていくのか、そして、どのようなスケジュールで実行していくのかといった全体のことについて、皆さんから全体的な所を具体的に進めていくにあたって、あまりこの辺の議論はしていませんので、意見を言っていただく時間にしたいと思います。事務局の方からまずご説明よろしくをお願いします。

事務局：資料3の1ページ目から4ページ目を使って、資源管理の進め方と目標設定の考え方について説明。

崎田座長：ありがとうございます。今までも委員の皆様から様々なご意見をいただいていたのですが、そういう全体像を事務局の方から資料で整理したうえで、どのように議論を進めてほしいか、きちんと資料を出していただきました。このような流れで皆様と議論をしていくことはやはり大事だと思っております。

皆様から質問や意見をうかがう前に、私の方から事務局に教えていただきたいことがあるのですが、資料の4ページの「資源管理WGでの討議の進め方」のところにはスケジュールが出ていますが、結局、これから皆さんと目標設定の考え方などについて色々と話し合っていくと思いますが、最終的に方針や目標設定の方向性などはかなりじっくり話し合ったうえで、数値の設定とかそういったことについては、今年度の6月ごろまでにこちらの会議から提案ができたらいいいのかとも思いますが、どのくらいのスピード感でお話をしていったらいいか教えていただけますでしょうか。

事務局：まずは直近で飲食に関するところですが、そのあと全体的な所につきましては、組織委員会内での進捗によるところもあるのですが、7月から9月ぐらい、おおむねこのあたりまでに議論のテーブルに出させていただけたいと思っています。

崎田座長：分かりました。ありがとうございます。今の様子では、目標設定の方向性などに関して皆さんからいろいろご意見をいただきたいですが、数値などの最後のこちらからの提案などは7~9月までに話を持っていければいいのではないかとということで意見交換を進めていければと思います。議論の全体像の資料は今まであまり出てこなかったのですが、まず、4ページまでの間で質問等あれば言っていただければと思います。よろしくお願いします。

さて、どういう風に話を始めていこうか、という感じですが、まず、古澤さん、東京都が今後都市としてどのように資源管理を行っていくかという方向性と、このオリンピック・パラリンピックで具体的にどのように実現させていくかは非常に大きく関連してくると思いますが、その辺でお感じになることなどあれば、口火を切っていただくと、皆様もご発言しやすいのではと思います。

古澤委員：東京都環境局の古澤でございます。私からは、都が目標に掲げていること等についてお話をいたします。東京都では東京都廃棄物処理計画を定めておりまして、そちらではいくつか目標を掲げております。目標の前に目指す方向というものがあるのですが、1つは、持続可能な資源利用ということを掲げております。もう1つは、良好な都市環境

を次世代に引き継いでいく。この2つを基本的な方向として位置付けておきまして、それに基づいていくつか目標設定をしております。正直、東京都においても廃棄物審議会ですらいろいろご議論いただいたのですが、特に、持続可能な資源利用について、どうやって目標に落としていったらいいのかということについて、十分検討がしきれたとはあまり感じておりません。今考えてもなかなか難しいと思います。ただ、当然のことながら、リサイクル率や最終処分量といったものは目標に掲げておりますが、もう一步進んだところまで議論を進めていくべき時期にあると思いつつ、なかなか明確な目標が見つからないなというところもあります。

1つ、処分量との関係で1点だけこの資料の中で申し上げますと、1ページ目のところで、直接最終処分量という言葉が入っております。直接最終処分量ですが、先ほどのお話では、後利用・再資源化の最大化を図って、その結果として直接最終処分量ゼロを目指すことを考えようかという趣旨のお話だったかと思えます。ただ、廃棄物関係の用語とはわかりにくいところもあって、直接最終処分量はあまり再資源化とは直接結びついてこないというのが実情でございます。直接最終処分量とは、例えば埋立処分場に行きまわりのことであり、埋立処分を当初から目的として処理する場合においても、多くのものは途中で中間処理をするんですね。そういうものは直接埋立量なり直接最終処分量には入ってきません。直接埋立をされているのは実はちょっと特殊な廃棄物であり、アスベスト含有廃棄物ですとか、どうしてもリサイクルの方法が見当たらないものだとか、リサイクルの後どうしても残ってしまう残渣分とか、そういった特殊なものなんですね。東京都では、直接最終処分量は産業廃棄物の0.3%、一般廃棄物では0.1%ということで、ごく微々たる量になっています。資源管理が目指す方向性をうまく数字にするのは非常に難しい課題であると考えています。

ちなみにロンドンについては東京とは状況がずいぶん違ったなという印象を持っております。ロンドンの場合は、たまたま手元にある数字ですと、ロンドン大会の前の段階で、日本でいう一般廃棄物に相当するものは約4割ぐらい直接埋立処分場に行く、すなわち、中継所経由で処分場行きのは41%を超えていたという状況でございますので、元々置かれた条件は都市によってずいぶん違っているな、と思っております。こんなところでよろしいでしょうか。

崎田座長：ありがとうございます、よく、市民感覚で言うそうですね、ごみゼロという言い方をよく行い、それに向けてチャレンジをすることが重要なのですが、実際にこのような目標を立てるときには、ごみゼロという抽象的な言い方よりも、例えば直接埋立はゼロにするとかですね、そのような目標にすると、その前の3R発生抑制、そして資源の効率的な利用といった、ロンドンでは38%を焼却して熱とエネルギーの回収をしたという、そういった目標を入れていたりしますけれど、そのようにして直接埋立ゼロに向けて全体の3Rを決定していくというあたりが、話の流れとしては非常に分かりやすいのですけれど

も、現実にそれに相応するようなことをやってきている日本が、どういう形で今後目標を立てていくと、しっかりと新鮮な形で取り組んでいけるようになるのか、そして、一步一步、皆で努力していくような形が作れるのかというのは、非常に大事な所ではないかと思えます。

あと、この全体のところと、2ページ目の、大会そのものからどんな廃棄物が出てきて、どういうところで配慮しなければならないかについては、メガイベントであるオリンピック・パラリンピックを実施する時に組織委員会がしっかりと取り組んでいただいて、その実績を社会に示していただくために非常に重要なところです。今大会で想定される廃棄物として仮設とか調達備品、会場装飾といった会場関係のものと、その下の食品その他運営時の廃棄物とあります。その下は、建設とか他の色々な廃棄物など、こういう分野がたくさんあって、それをきちんとリース・レンタルなどの調達の時点での工夫と、調達・購入した後のリユースや再生、エネルギー化といった一連の流れの全体像をしっかりと示し、全体像についてやはりどこをきちんと押さえることが、こういったメガイベントを実施する時に、そして、その後の成果を社会に示すときにも影響があるのか、といったあたりを皆さん考えておられることがあればお話しいただければと思います。まず森口委員お願いします。

森口委員：大きく分けて3点ほど申し上げたいと思います。1点目は、まずスライド2ページ目、先ほど座長がおっしゃったスライドですが、これは全体像を示す極めて重要なスライドだと思います。冒頭に古澤委員がおっしゃったことと関係するのですが、廃棄物とはなかなか面倒くさい世界でして、法律上の廃棄物というものと、皆様が一般的に廃棄物と呼んでいるものは必ずしも一致しません。ここで廃棄物として検討対象にした方がいいけれども、法律上は廃棄物にならないものも現実には存在すると思いますが、ここで議論しているのは法律上の廃棄物だけの話なのか、それとももう少し広い、使用済みになったもの、使い終わったものぐらいの意味で使っておられるのか。また、後利用という言葉についても必ずしも廃棄物の世界では一般的には使っていないと思うのですが、すなわち、法律上の廃棄物かどうかに関わらず、オリンピックで使ったものを再び使えるようにするという広い意味でこの後利用という言葉を使っているのか、といったことなど、用語の使い方をこの委員会だけでなく場面場面で統一するようにしておきませんか、ここまで含めていたつもり、いや、これは入らないつもりだった、といったことがあってもいけないので。そのあたり範囲は明確にしておく必要があるかと思えます。

2点目は、そのことにも関係するのですが、目標を作った場合に、それを適用する範囲ですよね。誰がその責任を持って管理できている範囲に対してそれを適用していくのか。ある種の直営的な事業のところについてはまだ管理しやすいのですが、様々な関連主体が廃棄物の発生に関わってくるということになると思いますので、いったいどこまでの範囲に対してその目標を適用するのが重要になってくるかなと思います。

3点目は、今の2点目と表裏一体ですが、目標を作るのはいいんですが、実際にどのように達成されているかモニターすることは結構大変なんですよ。先ほど東京都のご紹介がありましたが、私も長年国の循環型社会形成推進基本計画などで、指標や目標設定、ロードマップに関わっておりまして、志高く目標を作るのはいいのですが、それを的確に測るための統計が十分には存在しないということも現実にはあるんですよ。ただ、データとして取れる範囲内のデータだけで指標を作ってしまうと、逆に物足りないものになってしまうので、そこはトレードオフの関係にあるんですけども、その点を考慮しながらやらないといけないのかな、と。それとセットになるのですが、結局何種類ぐらい、いくつぐらい指標なり目標なりを作るのかという、数の感覚も、ある程度頭に入れておきませんか、やはり限られたマンパワーでやっていることでもあると思いますので、非常に多岐にわたるものを作り、様々なものを扱ってかゆい所に手が届くようなことをやりたいわけですが、効率的に行うために、どの辺を優先的にやっていくのかといったことも少し考えないと、時間も限られておりますので。印象としては、スライド2ページ目で示している事項は結構広いな、限られた人数で本気でやろうと思ったらかなり大変だな、という印象があります。

崎田座長：ありがとうございます。大会全体から出る廃棄物の一覧表が出てきましたので、それに関してかなりご意見が出ましたけれども、今、大事なご意見が出ているので、1つずつ事務局とやり取りしながら現状の共通認識を持っていた方がいいかなと思ったんですけど、1番のご質問で、スライドに出てくる廃棄物という言葉は法律上のものか、それとも現実のものかというところなんですけど、どのように今交通整理しておられるのか、事務局の方からお話しいただければと思うのですが。

事務局：用語の使い方およびその定義については、何らかの形で皆様に示せる形を出していかなければならないという認識がございます。今、廃棄物という単語と後利用という単語をいただきましたけれども、先生のおっしゃる通りで、法律上の意味より広く解釈して、使い終わった物、と言う意味で今便宜的に廃棄物という呼び方をさせてもらっています。後利用については、主にはその物をそのまま使う、リユースのイメージに近いところでこの言葉を使用しておりますけれども、その辺りの定義についてはいったん定めたうえで、皆様にまた議論いただく必要があるかと考えています。

崎田座長：ありがとうございます。言葉のことでちょっとシンプルな話なのですが、スライドの2ページ目の中に「再利用・転売 有償／無償譲渡」と書いてありますが、この「再利用」という言葉は、意味から言うと「再使用」という言い方にしておいた方がいいのかな、と。いわゆるリデュース・リユース・リサイクルの中の、リユース、再使用を意味する言葉にした方がいいかと思います。法律上か現実かという話については、やはり、

現実の大規模イベントに対応することをきちんとやっていきながら、それを今の日本の法制度、いわゆる自治体が行っている法制度の中に落とし込みつつ、そこでうまくいかないものに関しては、区とか東京都とか国とかとご相談しながら仕組みを作っていくことが必要だと思いますので、そういう意味では、この委員会での話し合いがあまりぎりぎりになると、その辺の意見交換といいますか、制度上の連携を作るのに時間が取れないといけなないので、少し早めに進めたほうがいいかな、という思いもあります。森口委員、1番のところについてはよろしいですか。

森口委員：はい。

崎田座長：2番目にですね、目標と適用する範囲ということでご質問があって、これは、この委員会がスタートした1年ぐらい前にもそのような議論がありまして、その時に、今回のオリンピック・パラリンピックでどのような廃棄物が予想されるのかという一覧表を作っていたことがあります。その際にやはり、組織委員会が直接関わるところと、東京都の皆さんが関わる場所、他の法人が関わる場所、それぞれの施設管理者が関わる場所などに色分けをしていただいたことがあるのですが、こちらで色々と目標等を設定したことが、できるだけ組織委員会が直接関わる場所以外にもその考え方が広がっていきとありがたいと言うことで、前は終わったのかなと認識していますが、森口先生はどう認識しておられますか。

森口委員：そうですね。今回のWGにあたって事前に事務局の方とお話をする機会があったのですが、その中で、今日の具体例で言いますと、たとえば、スライド2ページ目の左下に売店事業者さんという名前があります。これは、既存施設ですでに事業をやっておられる業者さんの事かと思うのですが、いったいどこまでの範囲を今回のオリンピックに関わって出てきた廃棄物として扱うのか、という決めの問題がどこかで出てくるかと思いません。また、警備上の都合などで、ここまでは誰かが管理していて、ここから先は割と自由なスペースということも出てくるかもしれませんので、そういった事との兼ね合いもありながら、バウンダリーを決めていかなければならないと思います。

とはいえ、廃棄物は持って歩けますから。よく例として言うのは、大学でお弁当を食べ、そこで捨てた弁当のプラスチックは産業廃棄物になるが、家に持ち帰って捨てれば一般廃棄物になるといった、法律上のややこしい所もあるんですけども、そういったぎりぎりした話よりは、実効ある、と言いますか、現実に関わって出てきている廃棄物にすり寄って進んでいるんだという、分かりやすい内容を定めればいいのか、と思います。現実的にやはりいろいろな方にご協力いただくことになるので、どこまでの範囲に適用するかということについては、実効性を考えて示せばいいのではと考えます。

崎田座長：ありがとうございます。今出てきた、左下の売店事業者さんは、それぞれの競技の既存施設を使わせていただいている場合の、その既存施設に入っている売店などもあるでしょうし、そういったところに対して、例えば販売するところの容器包装の使い方とか、廃棄物の出し方とか、どれだけ提案ができるのかといった点は非常に大事なところなのかな、と思っています。

また古澤さんに呼びかけてしまいますが、例えば、東京都の小池知事は2020年までにレジ袋の無料配布を中止して、2030年までに食品廃棄物を半減する、とおっしゃっていますが、私は実際に社会が課題視していることに対して発言されるのは大変大事なことだと思っています。そういう時に、例えばレジ袋の無料配布を中止するという話を、売店のところまできちんと届くようにするにはどうしたらいいのかとか、現実の話をしていくと結構大変な話ではないかと思います。やはり、そういうことに関しても、きちんと、ある程度皆さんが納得していただく流れを作ってくださいね、例えばどういうことができるのかといった、今私は例えとして言いましたけれども、そういったことを考えていくことも大事だと思います。突然レジ袋の話をしてしまいました。例えばそういうものも1つ1つ、例えば、組織委員会が直接関わる所ではこういうことを大事にしてほしい、と話した時に、その点をできるだけ多くの関係する施設で実行していただける流れに持っていくにはどうしたらいいのかという仕組みまで考えて提案させていただくという、そのようなきめの細かさがある提案をした方がいいのかな、という感じがします。今の適用する範囲のことに関して、事務局から何かコメントをいただければ。

事務局：以前のWGの中で、スコープを3つぐらいに分けて、組織委員会が直接マネジメントできる範囲と、国や東京都といったデリバリーパートナーと共に進めていくような範囲と、先ほどのような、広く観客の皆様であったり売店の皆様といった方々と協力してやっていく範囲というところで、3つほどのスコープに分けて提示させていただいております。そのスコープでどこまで組織委員会が働きかけることができ、それを目標に落とし込めるかというところでございますので、森口委員からご指摘があったように、どういった範囲に適用していくのか、といった案を今後、示していきたいと思っております。

事務局：補足ですが、今の観点から、スライドの3ページ目で今後の目標設定の考え方を示させていただいております。2ページ目で先ほどからお話をいただいている、左側に青地の箱と灰色地の箱がございます。実は目標設定の考え方のなかで非常に大事ななと思っておりますのは、まず、廃棄物に関しては排出者責任があります。その排出者責任に応じてしっかりと目標を作って実施していくというところと、先ほどから出ています、働きかけの部分に関してもどうするかという問題があり、これから中にご議論いただきたい所ですが、私どもとしては分けていただくべきと考えています。つまり、2番目の青地のところにある私ども組織委員会が排出者責任になる範囲の部分、さらには、濃い緑の建設事業

の廃棄物については、実はロンドンにおいても建設廃棄物の目標は立てられており、そのスコープの中で、国・都・組織委員会の三者が排出者責任にあたるものについては、ある程度ロンドン大会でもカバーしており、東京大会でもそれに準じた形で排出するのかと考えています。そうした意味で行きますと、仮にロンドンと同じということになりますと、スライド2ページ目の青地のところ+濃い緑のところがおおよそロンドン大会でも目標に入る所だったのかな、スコープだったのかなと。さらに、崎田先生がおっしゃられたような働きかけの部分というのが、この薄い緑のところに入ってくるのかといったところかと思えます。その辺のところをもう一度ご議論いただいて、そのうえで、働きかけの部分をどの程度数値化するべきなのか。モニタリングするのが非常に難しく、強制力がなかなかないので、そうでないところはある程度数値目標をつくって突き進むことができるかと思えますが、なかなか働きかけのところは難しい部分もあろうかと思えますので、その点もご意見いただければと思います。

崎田座長：ありがとうございます。今やはり排出者責任としてきちんとできるところと、働きかけとしてやる部分の違いがあるというお話がありましたけれども、最後におっしゃっていた、できるだけ働きかけのところもちゃんとやっていただきたいと思うのは、例えば、選手の方とか関係者だけでなく、世界から来て色々観戦する方にとっては、ここが直営なのか違う施設なのかはあまり関係ないことであり、日本が、東京が取り組むこのオリンピック・パラリンピック全体が、本当に持続可能性に配慮してやっているんだなとしみじみ感じてもらい、楽しんで、気持ちよく応援していただけるかというところにすごく影響していきますので、できれば、こういった意見交換をできるだけ色々な関係者にも場を広げて、排出者責任として組織委員会が取り組もうとされるような内容をきちんと関係のところにもお伝えしていくという、流れは大事なのかな、と。私が一言申し上げてしまうのもよくないですが。杉山委員、いかがでしょうか。できるだけそのように申し上げておきたいですね。

杉山委員：はい、ぜひそうして頂きたいと思います。

崎田座長：ありがとうございます。

勝野オブザーバー：先ほど、森口委員から誰が管理するかというお話があったときに、大学のお弁当のごみを家に持って帰ると一般廃棄物になるというお話がありました。これは、恐らく管理の問題と、コストを誰が負担するかという点をおさえる必要があると思います。今、排出者責任という話もありましたけれども、その時点時点で、コストは誰が負担するのかという視点と、コストがどれくらいかかるのかという視点も持つておく必要があるのかなと思います。管理の問題と、誰が処理のためのコストを負担するのかというこ

とを認識して議論をしていく必要があります。レジ袋の話についても、結局は消費者に負担を求めることにするのかという話になると思います。我々日本人よりも海外から来日された人の方がむしろレジ袋が有料であることに慣れていると思います。ごみの処理のことを考える際に、コストの視点も大事だと思います。

崎田座長：ありがとうございます。実施者とコスト負担といったそういった事がわかるように、徐々に、この表を精度を上げて作る時に、そういった事まで考えて作ることが大事なことですね。

事務局：すみません。先ほどの弁当のことについて皆さん誤解のないように。弁当ガラにつきましては、大会で発生したものという扱いにすると我々は考えておまして、スライド2ページ目の薄いピンクのところの運営廃棄物になると考えております。もしそれを持ち帰られてしまうと一般廃棄物になってしまいますが、その場でお渡しいただければ大会で排出したものであるということになります。先ほど排出者責任という話をしましたが、お客様が大会会場で捨てたごみの排出は私ども組織委員会の責任の下に処理することとなります。決してお客様に責任を渡すわけではないということでございます。

崎田座長：ありがとうございます。あと、先ほど森口委員から、現実にモニタリングの目標を作っても、色々な所までどうモニタリングするのか、それと仮定していくつぐらい指標を作るのかといったことも、後になって大事になってきますので。しかし、モニタリングは目標を決めて適用範囲を決めたら、後はモニタリングしてくださいと言うしかありませんよね。どういう方法がありますかね。森口委員。

森口委員：いや、言うしかないんですけども、さっきおっしゃった古澤委員の例えば東京都の直接埋立の数値なんかを見ていたりしたんですけども、5千何トンでしたかね、それは、実際に、廃棄物の収集車をはかりに載せて測っているからこそ測れるのであって、実はごみの量を測るのはそんなに簡単ではないですよ。それをたくさんおられる事業者さんにやってもらうのは相当大変なので、それよりも、廃棄物のフローの要所要所で測れるようなものを基に組み立てていかないと、現実的には非常に難しいですね。元々国の計画とかに出ている数字であっても実測はなかなかできていなくて、推計ベースでやっていたりするものが結構あるわけなのですが、どうせならばしっかりと根拠を持って測れるもので目標をちゃんと達成できますと言えた方がいいのかな、と。いわゆるアカウンタビリティというものかと思います。そういう意味で、きちんと測れるもので、隠し立てしてません、ちゃんと透明性を持って測れてますよ、とした方が、こういう場面では特にいいのかな、と思います。信頼感を持って数字を出し、そして、胸を張って言えることを中心にやっていった方がいいのかなと思います。

崎田座長：はい。最終的に、廃棄物を契約する業者さんが持っていくところで測っておくというところを、あとでどのように集計するかとか、そのへんの全体構造をかなり綿密に作らないといけない話ですけども、今後、どの施設からどんな廃棄物が出るかということ想定した一覧表を1年前に作りましたけれども、そのバージョンアップ版を、コストとかも考えながら作っていただければと思います。きっとそういったものは内部ではできているのではないかと思いますので、そういったものもきちんと整理しておいていただくとありがたいなと思います。あと、先ほどからご説明いただいている、スライド4ページ目までのところで皆さんが大事にしておきたいポイントというのがありましたらお話しいただきたいのですが。杉山委員とか環境省の鈴木さん、何かありましたら。

杉山委員：大会の施設の構造というか、例えば大型のショッピングセンター等については必ずバックヤードで廃棄物の置き場があるわけですけども、大会の施設の中にも廃棄物をみんながまとめて置いておけるような場所は、設計上必ず作るということになっているのでしょうか。ということを知りましたのは、スライド2ページ目の薄緑の、売店事業者ですとか放送事業者ですとか、そういった方々にどうやってお願いベースで皆さんに協力していただくかという際に、個別に廃棄物をどうこう、と言うよりは、ある程度まとめて、同じようなものがいろんな売店から出ることも想定されますし、まとめられるものはまとめて処理業者さんと契約するというのも当然考えていく必要があるかと思うのですが、そういった建物の構造として、廃棄物の置き場は設置されることになっているのでしょうか。

崎田座長：資源回収のステーションとかをどの程度まで業者さんとの契約でスペースをお借りする時にきちんとしていくか、ということでしょうか。

杉山委員：そうですね。

崎田座長：結局、例えばどのくらい資源分別をしっかりとやってほしいかということについては、この委員会であと何回かの中にきちっとお話しをしてそういったのをやっていかないといけないことではあると思うのですが。

杉山委員：ある程度まとまったものを、ポンと置いておくわけにはいかないんで、どこかにまとめて施設内に置いておく場所が必要だと思うのですが、そのあたりは最初からそういう風になっているのでしょうか。

崎田座長：施設によってそういうスペースがもう既にあるような競技場もあれば、ないと

ころもあるかもしれないという。それは、ケースバイケースできちんと契約していかなければいけないのかなと思いますが、古澤さん何かありますでしょうか。

古澤委員：基本的にはですね、相当古いものを別にすれば、今、例えば東京都内においては、各区市の条例で、廃棄物の保管場所の設置義務ですとか、リサイクルのためのスペースの確保、こちらは努力義務となっているかと思いますが、そういうところですね、区市町の方で新設時にそういう指導をしているところが基本ですので、多くの競技施設にはそういうスペースはすでに配置されているという風に思います。

杉山委員：それは仮設みたいな場合でも同じなのでしょうか。

古澤委員：仮設の場合は出てきますね、確かに。それはすみません、要確認だと思います。

崎田座長：逆に仮設だったらそういうところが置けるように設置することが大事なところかと思いますが、事務局さんそういう考え方でよろしいわけですね。

事務局：はい、まず、恒設と言いますか、既存施設を今回使うケースが結構ございますので、そこは古澤委員がおっしゃったような、そういうリサイクルのための、もしくは廃棄物を一元収集して出すためのバックヤードはございます。実際我々も何か所か拝見しております。あとは、仮設のところに関してはもちろんしっかりと適正な処理をしないとイケないですので、これからの検討になってくるかと思うのですが、仮設についてはそもそも仮設本体のものをどう作るかという議論がこれからになりますので、それに併せて、仮設を作ったときにどういう形でバックヤードを作るのかということの検討になろうかと思えます。すみません、現時点ではまだそこまでしかお話することができません。

崎田座長：ありがとうございます。鈴木さん何かありますでしょうか。

鈴木オブザーバー：はい、ありがとうございます。いろいろ指標を作ってそれを公開しているのは大切なことだと思うんですけど、逆に、オリンピックが終わったり、あるいは国内外にサポートしてもらいましたという発信というところも考えていくべきなのかな、と思います。ロンドンと同じというわけではなくて、日本ならではの指標をどう見せるかということを考えてうえで発信を考えていくことも必要かなと思います。そう言った観点に立った時に、循環型社会と考えると、やはりリデュースがあってリユースがあってリサイクルがあって、それでだめなら熱回収といったようになっているので、その再利用、先ほど崎田座長は再使用とおっしゃっていましたが、再使用できる割合みたいなのところにも

う少しフォーカスした数字も考えるべきかなと思います。

崎田座長：ありがとうございます。資源効率性の観点から行くと、そういう、リデュース・リユースあたりを強調することも流れからいえば押さえておくことが非常に大事だと思います。なお、先ほどからロンドンでの目標という話がよく出てくるんですが、数だけ言えばロンドンの時は目標は6つ、廃棄物関係の目標は6つだったかと思います。直接埋立ゼロも入れて6つ。ちょっとそういった事を情報提供させていただきます。あと、今鈴木委員がおっしゃった、スライド2ページ目の表にある「再利用（再使用）・転売 有償/無償」の所なのですが、実は、選手村の機材とかですね、色々なことも考えれば、おっしゃるようになりますね、使い終わった後どのように再使用するのかということも考えたうえできちんと調達するとかですね、ここをきちんとやっていかないと、重さが非常に重い製品が多いと思いますので、このところの仕組みをちゃんと作っていく、あるいは現物にちゃんと対処しておくのは大事な所かなと思います。古澤委員すみません。

古澤委員：目標設定に関しては、今までの色々なご指摘いただいた点にだぶらないようにしますと、もう1つは、組織委員会さんなりあるいは東京都などを含めて関係者の努力で改善できる目標かどうかというのもあるかと思います。要は、こちら側でコントロールできる数値、取り組みに直結するような目標でなければいけないのかなと思います。そういう点で言うと、例えばスライドの3ページ目にある焼却処理のエネルギー回収率とかについてはなかなかコントロールがしにくいのではないかな、と思います。それから、最初に申し上げた直接埋立の回避の目標については、直接を取って、埋立回避の目標にする方が趣旨からすると妥当なのかなと思います。やはり直接ですと意味がずいぶん変わってしまうように思います。

それからもう1つ、皆さんも当然の前提だと思うんですけども、最初のページにありましたSDGsの中でですね、食品ロス・廃棄物の半減ということが掲げられているという点で、次のテーマになるんだろうと思いますけれども、ここはやはり、フードロス対策については飲食戦略検討会議にも出していただいていますけれども、ここは1つ、どうしても落とせないことになるかなと思っております。

崎田座長：ありがとうございました。いろいろとご意見をいただいた中で、目標に関しては先ほどお話しされた埋立回避、いわゆる埋立ごみゼロというような設定もありなのではないかというお話ですとか、リデュース・リユースの発生抑制のところを重視するような目標設定が大事なのではないか、あるいは、SDGsでも出ている食品ロス削減あるいは食品廃棄物削減、ここは今まであまり強く取り組んでいない所ですので、世界の課題にもなっていますので、こういうところも非常に大事なのではないかというお話をいただきました。あとはまたいろいろと意見交換の中で考えていければと思いますが、森口委員と白井

委員がまだお話ししたいという状況ですので。森口委員からどうぞ。

森口委員：では先に失礼して、しかも既に時間の押してる中で申し訳ないのですが、さっき申し上げたような廃棄物の話で、これは分かりやすい話で、国民の関心も高い話なので、これはぜひ重視すべきということには何の異論もないのですが、資源管理って廃棄物だけなのかという、もうちょっと大きな話もおこななければいけないかなと思います。すなわち、終わった後どうするか。再使用か、という話。そもそも、ここで使うものはどういう資源を使うのか、という側の議論も資源管理の範囲には当然入っていたと思いますし、調達のコードの中にはその話も入っていたんだと思います。今、メダルの話が動いていますし、あれは都市鉱山から金メダルを作るという話ですが、大会で使うそれ以外のものは、そもそも大会後にリユースするのではなくて、リユース品をここで使うといったこともあり得ることですし、これは今から間に合う所は少ないかもしれないが、建設資材をリサイクル品のものにするとか、典型的なものですので、今の案ですと資源管理に係る目標設定が廃棄物側の話だけしか今書かれていないので、調達の話を中心にここで入れるのか入れないのか、調達との関係をどうするのかといったことも是非このタイミングで議論しておかないといけないと思います。廃棄物の話をやりだすと沢山現実的な問題があって、それだけで手いっぱいになるかなと思いますので、このタイミングで議論しておくべきだと思います。

崎田座長：ありがとうございます。半年ぐらい前の、調達についての議論をここでもやらせていただいたときに、調達の中にも資源の3Rといいますか、資源効率性を考えた調達をするような文言は入れていただいていると記録しておりますが、それがきちんと調達の時に全ての色々な分野でちゃんと考えていただけるような形になっているのか、それを再確認していただいくことも大事なかなと、そんな感じがしますが。

森口委員：それが気になっておりましたのは、街づくり・持続可能性委員会、一番上の委員会の委員長が当然そういったことはやるんだろうと上の委員会で発言をご発言されていたので、そういうところとの関係で、実際がなかなか追いついていないとまずいかなと思いましたので。

崎田座長：ありがとうございました。調達WGの話のところでも、3Rを考えた調達という文言は入れましたが、現実が機能するように、少しきちんともう一度、これはどうしましょうね、ここで1回話し合いをした方がいいのか、事務局で1回調達の方の流れを確認していただいて、ここに報告いただくのか、どう言う形にしたらいいですかね。

事務局：それは、我々のほうで一度確認させていただいて、また都や国がどのような活用

をしているかというところも調査したうえでまたご報告させていただきたいと思います。

崎田座長：分かりました、ありがとうございます。調達における3Rの精神の徹底について、現実にもどういふふうに取り組んでいるのか、一度調べておいていただければありがたいと思います。白井さん。

白井委員：先ほど鈴木オブザーバーからもありましたが、どう発信するかというところもあるんですけども、そういう意味では、これまでの取り組み、建設廃棄物などですね、うろ覚えの数字で恐縮ですが、平成7年ごろには最終処分は4千万トンぐらいでしたが、統計ではそこから10分の1以下程度まで減らしていると思います。そういった日本の取り組み、これまで頑張ってきたことも発信していてもいいんじゃないかなと思います。そういう意味では、これまで非常に努力してきましたので、直接ではない埋立ゼロというのは難しい面があるのではないかと思います。

崎田座長：ありがとうございます。はい、それではですね、皆さんから今ざっとご意見をいただきました。まだまだあると思うんですが、次の議題に行って、色々意見交換しながら、また思い出したことがあればお話しいただければありがたいと思います。

次の議事3ということで、飲食提供に関わる廃棄物の課題、食器リユース・リサイクル・食品ロスについてということで、ここも先ほどからの話にありますように、具体的な物の中では今非常に社会が関心を持っているところですので、それに関してもこのオリンピック・パラリンピックで、積極的な方向性が社会に提示できれば、大変重要な取り組みになるのではないかなと思っておりますので、ぜひ状況をお話いただき、皆さんと意見交換できればと思っております。では事務局の方からよろしくお願いします。

事務局：資料3の5ページ以降を使って、飲食提供に係る廃棄物の課題について説明。

崎田座長：はい、ありがとうございます。シンプルな資料で、シンプルな資料なんて言うては申し訳ないですね、非常に大事な所なのですが、これをどのようにここで進めていくのか、今日と次回でまた少し意見交換できればなと思います。後ほどですね、食品ロスに関しては、少し私の方から、資料4としてお話しします。私が理事長を務めるNPOで、この1年ぐらい食品調達と食品ロス削減に関する勉強会をしていてですね、特に食品ロス削減に関して、大規模イベントの時にこういう内容を配慮したらいいのではないのかということ、参加者の皆さんと共有した資料がありますので、後ほど食品ロス削減に関しては資料4を基にご意見いただければと思います。

その前に食器のリユース・リサイクルという項目がありますけれども、これは、特に選手村とかプレスとか食堂をちゃんと作らないといけない所での使用する食器をどのように

考えていくか、やはり使い捨て食器という状況ではないと思いますので、きちんと使っていただけるような内容に、どういうふうに資源管理 WG で意見交換し、提言をまとめる方向に持っていくのか。今日からスタートですので、ざっくばらんにお話しいただければと思います。森口委員、お時間があまりないのですが、食品ロスと食器と両方について。

森口委員：では、ごくシンプルに意見を述べさせていただきたいと思います。今、2枚目のスライドに食器とあったんですけども、あえて、細かいことを言うと言われるかもしれませんが、飲料容器は分けて書いていただいた方がいいのかなと思います。

今崎田座長がおっしゃったことと関係してくるんですけども、これもパウンダリーの問題で、選手村での提供の話がされているのか、競技場ですとか、あらゆる場面で飲食は関わってきますので、どこでやるのかという話について、中心でやる所、それ以外の所とあるかと思っておりますので、その点整理していただければと思います。

3点目は、飲食戦略検討会議があるということで、日程調整等大変かもしれませんが、もし可能であれば合同で議論するような場面もあってもいいのかなと思います。食品関係の容器の話とか、食品廃棄物の話そのものを我々がマニアックにやっていると、そもそも飲食そのものを楽しむということに関してもなんとなく少し感覚が変わってきてしまうところがあるかもしれません。本来の飲食をどう提供するかという視点とのバランスの中で議論されるのがいいかと思っておりますので、進め方についてご検討いただければと思います。言いつばなしで退出してしまい、すみません。

崎田座長：ありがとうございます。今3番目の点で、飲食戦略会議との合同なり、何か一緒に議論ができる場があるといいんじゃないかというご提言は、大事な所かなと思います。私も食品の調達というところにずいぶん関心を持っておりましたが、それをどう料理するのか、あるいは食品ロス削減とか、全体一連の流れがあるので、それを分けて議論するのはあまり生産的ではない。と言うかですね、きちんと議論し、全体像が見えるような形で流れを作った方がいいんじゃないかなと思いますので、こういう話し合いを合同でできたらいいのではないかと思います。そういうところの話をここでご提示いただくのか、どういう形にするのか。それとも、両方の会議で委員が一緒になったら合同ということですね。そんな流れもいいと思うんですが、そのところだけ、可能性みたいなものはあるのでしょうか。今、食の戦略会議は組織委員会で実施しているんですか。

事務局：ええ、組織委員会でやっております。調達の時には資源管理 WG の方で色々意見をまとめていただいて調達 WG に出して、調達 WG の方で議論をまとめていただいたという経緯があります。ただ、この資源管理 WG と飲食戦略会議は立て付けが別になっておりますので、ちょっとそれは我々の方で検討させてもらって、またお返ししたいと思います。

崎田座長：立て付けが別とはどういう意味でしょうか？

事務局：この資源管理 WG は、街づくり・持続可能性委員会があって、持続可能性 DG があって、この WG という形になっていますが、飲食戦略会議はそれ自体で1つの会議体になっておりますので、そこは、我々としてどう対応するのかはこれから検討させていただかないといけないと思っております。

崎田座長：分かりました。今、政府の委員会も合同でやっております。別々に議論し、報告書を2つ作ってまとめるのはすごく時間がかかるんですね。議論が白熱したとしても、一緒に議論して1つのものをまとめた方が、その後に実施する時に非常に良いという風に私も考えておりました。今、私も日本の温暖化対策の長期戦略とかそういう話し合いに参加をしたりしますが、別々にやっていて時間がかかるなど、思ったりしています。ぜひ、大事な所ですので、様子を見ていただければありがたいなと思います。ありがとうございます。では、森口委員どうもありがとうございました。

そうすると、食器のリサイクルと、食品ロスのお話を分けてしまうのもあれかもしれないので、またこれ実は違うんですね。食器のところでは少しご意見を先にいただいた方がいいんでしょうかね。先ほど森口委員がおっしゃったように、一口に食器と言っても、選手村でのお料理をお出しする時の食器とカトラリー、いわゆるナイフ・フォークとかお箸とかですね、そういうものと、競技場に出るようないわゆる飲料のコップとかですね、いくつか特徴的なものがありますので、そういうことを少しわかるような形できちんと意見交換できるような状況が確保されたいのではないかというお話でした。それに関して今何か意見をお持ちの方はいらっしゃいますか。私から一言意見を申し上げれば、実際にどのくらい、いわゆる、食は何食分用意するか考えられていて、例えば選手村では食器がどのくらい必要かといった総量みたいなものは出ているのでしょうか。それを、現状では、普通レストランなどでは洗浄設備が横にあってその食器を洗いながら回して使っているわけですが、そういう状況を普通にセットいただける状況であればそうしていただければありがたいと思いますし、それが難しいのであればそれをどのように工夫するのかと、課題を明確にしたほうがよろしいのかなという感じもいたしますが。そういった全体像については、今後情報を出していただいて、次回意見交換したほうがよろしいのか、どんなふうに進めていったらよろしいのでしょうか。

事務局：東京大会でどのくらいの食事量か、食器量かといったことについては、なかなか飲食の戦略会議を踏まえて決めていくところもあると思いますので、およそロンドンがどうだったかということをご説明しまして、だいたいそれに近い所だろうというイメージでご議論いただくことではいかがでしょうか。

崎田座長：食事だと 1550 万食と言われていますが、それに対して食器はどのくらいセットしたのかは、そういう数字は、きっとこれまでの大会の報告書を見ていただけたら出ているということですよ。

事務局：そうですね、ロンドンでは、全体として 1550 万食の中で、選手村では 200 万食が出ていたということです。食器の数までは把握できておりませんが、200 万食に対応するトレー・皿・スプーン、その他が用意されたという認識です。

崎田座長：たとえば、その食器をきちんと洗浄して使っていただくような、そういう流れが、きちんと選手村でできるような形にさせていただくのがいいのではないかと思います。そういった形に持っていけるのかどうかとか、どこに議論の課題があるのかを明確にさせていただいた方が、委員の皆さんも議論しやすいのかなと思います。鈴木さんお願いします。

鈴木オブザーバー：割と答えはシンプルでして、捨てた方がいいかリユースした方がいいかはリユースしたほうがいいに決まっているんですね。リユースをしようと思った場合に、さっきのボリュームもそうなんですけど、何に課題があるのか。設備の問題なのか、あるいは提供の仕方の問題なのか。課題をこなせないのだったらそれはリユースできないということになると思うんですよ。大前提としてはやるべきだと思います。そのうえでの課題、問題点はどういうところがあるのですか、というところは、ここであぶり出すのがいいのか、事務局であぶり出していただくのがいいのかわかりません。さっき座長がおっしゃったように、洗う場所をどうするのかとかですね、さっき選手村が 200 万食とおっしゃっていましたが、別に多い時と言ってもいっぺんに 200 万食提供するわけではないのですから、洗う期間が例えば中 1 日で洗って戻ってくるんだったら大丈夫だね、みたいなことにもなるわけですよ。そのへんの数字やボリュームがわからないと議論しづらいですね。

崎田座長：この議論はできるだけ早くした方がいいのかとも思いますけれども、例えば、今どこに課題があるのかという、その辺の全体のボリュームを、次の時に資料を提示していただいて具体的に話していくという、そういう形でよろしいですか。事務局さん。

事務局：私の方から、ちょっとうる覚えなんですけれど、例えば選手村のダイニングについて言いますと、選手村の場所はもう今決まっているわけですよ。今、その選手村が想定されている場所があって、その中でどういう建物があって、その中でダイニングはどこに配置をして、といった話は、会場整備をする部署で議論をしております。その中で、

ダイニングに関して言うと、飲食サービスを提供する FA、担当部署がありますので、そこが、オリンピック大会に求められるサービスの水準に応じて、どれくらいのスペックがあるのか、例えば、調理場はどれくらいの広さがあるのか、食事を食べていただく場所はどれくらいの広さがあるのかといった、そういった個々の要素を勘案しながら、中で議論しております。ですので、次の時にどこまでご説明できるかということもありますけれども、そういったところを1回聞き取りまして、またこの場で紹介をさせていただこうと思います。そういう意味では、いくつか所与の条件なども出てくるかと思しますので、今言われたような形で、どういった前提の下で考えるのかをなるべく具体的にお出しできるような形で、聞いていきたいと考えております。

崎田座長：ありがとうございます。今、選手村とかの状況は色々資料を、次回ご提示いただいて、皆さんとの話し合いができるような形でご準備いただけたらと思います。ありがとうございました。あと、先ほど森口委員からもあった、それぞれの会場の中で飲み物のコップなどはどういうような形がいいのか、といった辺りに関してはですね、以前、レガシープランなどの時に、NGOの方からですね、今、サッカー場等ではリユースカップを使っていたりもしていますが、リユースカップというのはオリンピック・パラリンピックの時に活用の可能性はないのかというご提案も確か来ていたと思います。リオに行ったときはですね、リユースカップとして使っているわけではないのですが、すごくおしゃれなしっかりとしたカップでビールを出してくれて、みんなこれは家でリユースしようと思ってみんな持って帰るという形で、誰も捨てないというリユースカップでしたし、ああいう飲み物のカップをどうするかといった辺りも、1つに決めなきゃいけないわけではないのかもしれない。いろんな提案を、日本らしいやり方というのがどういうのができるのかもちょっと意見交換する必要があるのかなという感じもいたします。次回あたりにその辺の資料を、食器とか飲料容器のリユース・リサイクル等について継続して意見交換ということでもよろしいですかね。食器やカップに関して何か今追加的にご発言いただける方おられますか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。

では、また後ほど思い出した時にお話しいただければありがたいなと思いますが、実はこの検討項目の中にですね、食品ロス削減という言葉があり、ちょっと今資料4というのをご用意しまして、私が簡単にご説明させていただこうかと思うのですが、今、簡単に説明させていただいてもよろしいですか。はい。

資料4を用いて、「東京2020大会の食品ロス削減」のデザインについて説明。

私の方から資料提供させていただきましたが、食品ロス削減についてはいろいろご関心のある方も多いでしょうから、ご意見をいただければ大変ありがたいなと思います。杉山先生いかがですか。

杉山委員：はい。やはり、いろいろな資源管理の課題の中でも、食品ロスの問題はとても今社会の注目も浴びており、オリンピック・パラリンピックの中で取り組むべき主要な課題の1つであるということは同感です。最初に、2ページ目のスライドの全体像について。それを見てもわかりますが、一言で食品廃棄物と言っても色々あると思います。選手から出るものなのか、観光客から出るものなのか、それも、海外から来られた方から出たものか、日本人が出したのか、といったところで、いろいろ違ってくると思います。その辺りを全部一緒に議論するとかえって分かりづらくなると思うので、こういうところではこうしたらいいだろう、といったように、先ほどリユース食器の話でもトータルの話が出たんですが、ただ、同じ場所でドーンと出るわけではないと思いますので、会場ごとに食事をどうするのかであったり、それをどういうふうに分類するのがいいかは私はこの段階ではよくわかりませんが、食品ロス・食品廃棄物の出方は、誰が、どこで、どう出すのかといったことで切り分けて、それに対しての方策を議論していくべきかと思っています。

崎田座長：ありがとうございます。誰が、どこで、どう出すかというのはその通りで、例えばこの2ページ目の表を見ていただければ、一番上のところに24時間対応と書いてある所は、24時間対応できる調理場がちゃんと必要なわけですので、選手村とプレスセンター辺りでは同じような形でしっかりと考えることもあるかもしれないですね。それ以外の、競技会場でのものは、調理したものを運んで行って、容器包装材だけが出てくるのかもしれないですし、その辺、現実感を持ってやっていった方がいいと思います。あるいは、調理する場があるような競技会場では、今回、いろんなところに競技施設が広がっているんで、選手がそれぞれの競技会場で食事をするのも結構あるのかもしれないですね。

事務局：そうですね、ありえますね。競技会場によって、また、競技によって、しっかり出さないといけない所、あるいは、軽食というかつまむもので大丈夫な所など、色々な場合が考えられると思います。

崎田座長：そうですね、わかりました。そうすると、そういう情報、例えば、選手の方向けは1時間とか2時間しか提供できないといった、ある程度IOCの決まった流れはきちんとあるわけですね。

事務局：作ったものを置いておける時間という意味ですね。

崎田座長：そうですね。

事務局：それはありますね。

崎田座長：2時間ですかね。

事務局：ロンドンだと、温かい食事は2時間といった提供のルールがあったというように聞いてますね。

崎田座長：今度の日本もそういうルールがあり、真夏の開催ですのでできるだけ安全管理が一番大事な所ですので、おいしいものをしっかり食べていただくための安全管理をすることが大前提ではありますが、そこに食品ロス削減という世界の課題をしっかり入れ込んでいただくことで、社会や世界への強い発信ができる状況の設定ができるかなと思います。そういうふうにするにはどういう風な所に配慮したらいいのかということ、皆さんと話し合っていけたらなと思いますが。鈴木さんとか古澤さんとか、割にこういう情報に近いところにいらっしゃる方は、いかがでしょうか。

鈴木オブザーバー：ありがとうございます。座長にお示しいただいた資料のですね、5ページから7ページ目あたりを見ていると、それぞれの場面場面で食品ロスが生じるところを整理していただいているんですね。で、そうやって考えたときに、適切な食材の調達については技術があればできることなのかな、とっていて、変動要因になるところは、調理も大事ですが、7ページに乗っている食べ残しのところなどは、かなり技が使える、技というか色々な仕掛けができるのかなと思っています。これは、座長がやっておられたワーキングでも、元気ネットさんがやっておられることでもあるかと思いますが、バイキング形式での提供はかなり食品ロスに影響してくるのかなと思います。日本の提供の仕方として、ファストフードではないんですが、すごくいいものを早く提供できる技術を当然持っているので、ケータリング業者さんにも、それを短期間ですよ、できない訳はないんじゃないかなと個人的には感じています。IOCとかでバイキングじゃなければいけないよとか、さっき次長もおっしゃっておられましたが、2時間以内で提供しないとイケないとかあると思うのですが。

崎田座長：バイキングじゃないといけないという訳ではないですよ。

鈴木オブザーバー：そうなんですか。それはかなり大きな要素だなあと思っているのですが。そのような決まりがあるのですか。

事務局：おそらく、選手村のメインダイニングのような、大きくて一度に大量の人が来る

ような所とかは、そういう方式じゃないとうまく回らない、ということだと思います。

鈴木オブザーバー：テクニカル的にそうなのでしょうか。

崎田座長：いろいろ中に入った方に伺ったときに、ロンドンの時では全員に対してガンガン乗せてしまって、大量に残ったけれど、リオの時には多めによそったり少なめによそったりという配慮がわりにあったので、リオの方がきっと食べ残しは少なかったのかな、という意見というか、声も聞こえたりしてますので。そういうところの食べ残し削減の辺りをどのように工夫するかといったあたりが、はい。

事務局：私も座長の資料のスライド7のところを拝見していて、提供方法の工夫については、なるほど、ありえるかなと思いました。座長も、もしかしてリオ大会で現場に行かれましたか？

崎田座長：いえ、写真だけ拝見しました。

事務局：自分で取れるのか、よそっていただけるのかでたぶん違ってくると思うんですけども、よそわれるんですよね？

崎田座長：よそってもらう、サーブしてもらおう。

事務局：自分で取らない方式は良い方式ではないと聞いたことがあります。どれぐらい希望量を聞いてもらえるのかどうか、その辺のオペレーションのやり方は要相談だと思いがら拝見しておりました。

崎田座長：ありがとうございます。この辺でうまい技と言うか配慮と言いますか、提供方法の技を皆さんで考えてもらい、うまくおいしい食事を皆さんにしっかり食べきってもらうような形ができればいいなと思います。ありがとうございます。また、色々、実際の決まり事と言いますか、最低限守らないといけない決まり事とかも確認させていただいたうえでそういう意見交換をできればなと思います。古澤さん何かこの辺に関して。

古澤委員：そうですね、飲食戦略の検討会議には、私どものセクションからも私の上司が委員で出席しておりますが、色々、その議論の中でも、やはり選手村のダイニングに関しては、先ほどちょっとあったようなスペース面での色んなかなり厳しい制約もある、あるいは、とにかくものすごい数の食事を限られた時間で提供しなくちゃいけないという制約条件もあり、飲食戦略検討会議の方でお話を聞いていると、選手の皆さんの食事のとり方

として、やはりその大会の競技の時にベストに持っていくために、どういう食事の取り方が必要とかですね、どういうところに気をつけなくちゃいけないとかですね、色々と皆さん食事には注意をされているんですね。そういう意味では、物理的なコスト面の制約だけでなく、選手サイドからの色々な制約もある中での話だと思います。ですので、食品ロス削減は非常に重要なテーマで、これは絶対に落とせないテーマだと思うんですけど、色々な観点で多角的に見なくちゃいけないところがあるので、その辺り、なかなか環境や資源という観点だけでは決めきれないのは当然だろうなと思います。また、一方で、食品ロスの削減というのは、飲食提供の会議の方でも出てきましたけれども、環境面と言うばかりではなく、食文化とかモラルといった観点で減らしていきたいねというご意見もあったと思うので、すごく多角的な議論かなというふうに思います。その辺、いろんな視野・視点を踏まえつつ、何が現実的にできるのかを言うところをこれから探していかないといけないのかなと思います。

崎田座長：ありがとうございます。勝野さんお願いします。

勝野オブザーバー：私も飲食戦略検討会議に参加しています。実際にリオ大会でも選手村のメインダイニングやプレスセンターの食堂を見せてもらいました。飲食戦略検討会議の方でも食品ロスや食器の問題について、別途議論しています。資源管理 WG は環境面や資源面の専門家の先生方にメンバーに入らせていただいていることもあって、どうやったら食品ロス等を削減できる余地があるのかといった、工夫の技術的なアドバイスなどをたくさんいただくのだと思います。先ほどから話が出ているように、制約要因がある中でも、これならこういうことができるよね、これならこんなものが対応できるよねと言ったようなアドバイスをいただければ良いのではと思います。例えば、選手村の食堂は選手・スタッフは無料で提供されるので、選手の方も、自分の加減というものもあるんですけど、普通に提供されるものをそのままお皿に盛って、あまり食べ残しをしないといけないという意識はロンドンでもリオでも持ちづらかったと思います。選手にとっては、試合で勝つことが一番大事であり、周りのスタッフも食べ残しはいけないと注意するような雰囲気はなかったと思います。一方で、マスコミ・メディア向けの食堂は有料だったので、当然、自分でたくさん取りすぎたら、その分が金銭的にも無駄になってしまうということがありました。キロレストランと言って、重量ベースで単価が決まっていて量り売りだったので、たくさん取って自分が食べ残したらそれは全部自分のコストになります。そのため、コスト意識もあって、たくさん取りすぎるといことはなかったかと思います。どこまで選手に食べ残しに対し、もったいないといったことを意識してもらえるのか、啓発してもいいのか、といった点について、検討が必要と思います。

事務局：まさに今、勝野参事官や古澤さんからおっしゃっていただいたことは、非常に、

事務局としても悩ましいなと思うところがありまして。今、選手村の選手の食事の話が出ましたので、私が聞いたエピソードとしてご紹介させていただくんですが、事前に各国のオリンピック委員会には、メニューは案内されるらしいんですね。それはなぜかと言うと、メニューを事前に見ておいて、選手の皆さんは、カロリーをきちんと計算されます。この日のこのメニューならこれぐらいの量を食べたらいよいよとか、事前に指示が出ることも結構あるらしいんですね。だから、それも1つの与件にはなりますよね。そういった、選手村の選手用の食事について、所与の条件みたいなものも、できるだけ整理してご説明させてもらい、その与件の中でこういった工夫ができるのか、こういった啓発ができるのかということについて、具体的なご提案をいただければ事務局としても大変ありがたいかなと思います。

崎田座長：ありがとうございます。選手村のところは、選手の方がいいコンディションになっていただくのが第一義なので、その時に例えばコーチの方とか周りの方がカロリーを計算して、うまく取っていただくとか、そういうようなところが自然に社会の流れとなっていくような雰囲気、今回のオリンピックのところの色々な準備が進められたらなと思います。以前、勉強会をしたときに、せっかく日本は今農林水産省でも「ろすのん」のマークを、ご存知ですか。国旗とお皿がマークになっている、食品ロス削減のマークというのがあってですね、かわいいマークなんですけど、そういうものをうまく活用しながら、日本は食品ロス削減を頑張ってますと色々な所で啓発すればいいですね。ゼロから新しいマークを作っていくとまた大騒ぎですけれども、そういうやり方も色々ありますので、うまくやっていくこともできるのではないかなと思います。東京都ががんばっている「つれてってシール」もありますけどね。

古澤委員：直接うちではないんですが、先ほど勝野参事官のお話にあった通り、どういうメッセージを選手や関係者の皆さんに発信して、同時にそれを外の世界に発信していくかが、一番重要な所かなと感じています。

崎田座長：ありがとうございました。杉山委員何かよろしいですか。そろそろ話を締めたいところかと言うところですが。

杉山委員：もう十分話しましたね。大丈夫です。

崎田座長：ありがとうございます。食品ロスの話はまだ今日からお話のスタートですので、次回辺りでも、もう少し意見交換させていただければなと思いますけれども、もし、またいろいろと、それまでに今日言い忘れた視点などがありましたら、事務局の方は、今週中ぐらいまでは新しい意見があっても大丈夫ですか。あるいは、今日のこの話でいった

んまとめましょうか。そうですね、次の会議まであまり時間がないですから、すみません、委員の皆様も次の会議まであまり時間がないので、今日出たお話の中で、少し事務局の方で資料の準備とかいろいろしていただいて、また次の委員会で協力して話し合いをする、としたほうがいいかなと思います、それでよろしいですか。事務局の方も、今日は宿題がたくさん出ている感じがしますがよろしいですか。はい、わかりました。

それでは、まだ終わりじゃなくてですね、議題4というのがありましてですね、実はその他の事項というのは、鈴木さんにお話していただいた方がいいかなと思うんですけども、実はですね、環境省の方で、3Rの人材育成に関する検討会を昨年度開催していただいて、私がまとめ役をやらせていただいたんですが、いわゆるボランティア人材、すみません、今9部しかないんですけども、大変申し訳ないんですが、周りで聴いていただいている方も申し訳ありません。これはまだ担当した事務局が作ったばかりでですね、いわゆる3R人材育成プログラムの骨子案がまとまったという段階の資料をお配りしました。すみません足りない方、また提供させていただきますけれども、これは、2020年のオリンピック・パラリンピックを契機とした3R人材育成ということで、ボランティアとして色々参加していただく方に、3Rのお話をきちんと伝えて、先ほど色々杉山委員からもお話があったような、リサイクルステーションみたいなところを色々フォローしてもらう人材をどのように育てていくか、そういうようなことをしっかり考えるための骨子案というのを作りまして、これに肉を付けていくのがこれから半年ぐらいの作業としてやらせていただく予定です。これは、ご担当が環境省の鈴木さんなのですが、一応、すみません、まだ骨子案ということで、私の方から皆さんに配らせていただきました。鈴木さん、それでよろしいですね。

鈴木オブザーバー：はい。

崎田座長：ありがとうございます。皆様、パッとご覧いただければと思うのですが、あの、3R人材育成プログラムということで、今、組織委員会がお考えのですね、ボランティアを養成するということにも、持続可能性に関する情報を基本的に入れるということも、研修の中に入っておりますし、そのボランティアの方以外に、少し若いボランティアの方に3Rのところをきちんと担当していただけたらどうかという話もあると伺っていますので、そういう流れを現実に具体化する時のために、この委員会のまとめをぜひ提案させていただきたいと。ですから、この環境省で呼びかけた検討会のまとめを組織委員会の方に提案させていただき、ぜひ活用してもらえればありがたいということです。パッと開いていただいて、まず基本方針として、今お話をしたようなことが書いてあって、プログラムとして、大きく分けて2つなのですが、1つが基本的な持続可能性の話で、2つ目が若い中学生・高校生のような方たちに研修をする内容なのですが、単に決めたことをお伝えするという研修ではなく、自分たちが主体的に、物を大切にするようなことをみんなに

お伝えするにはどうしたらいいかを考えてもらうような、ワークショップ型の研修という、新しい試みをしています。そして、こういうような流れですね、その研修内容と、それを学校の指導者の方とかにお伝えするための研修プログラムということで、合計して3つ作っていくということを今考えています。そして、来年あたりに、NGOの方に実際にやっていただいたり、学校で取り組んでいただいたりする。そういった形で、PDCAサイクルを回しながら、2020年、あるいは2019年あたりに組織委員会でこういう動きが必要になるときに、活用していただけるように、質を高めて提案させていただければと考えてやっております。鈴木さん何か一言お願いいたします。

鈴木オブザーバー：丁寧にご説明いただきましてありがとうございます。座長のおっしゃる通りです。

崎田座長：ありがとうございます。最後のページのところに、これに関わった方の名簿があるのですが、現実には、NGOなどで色々な大きなメガイベントのごみゼロプロジェクトの仕掛け役をやられる方ですとか、環境学習を非常に積極的に取り組んでおられる学校の校長先生とかですね、いろいろな方にお入りいただき、できるだけ現実感のあるように話し合いを始めている所で、ご活用いただければありがたいなと思っております。これに関してはこのような事をやらせてもらっているという情報提供ということでお話をさせていただきました。何かご質問とかはありますでしょうか。あと、組織委員会の皆さん、これは骨子案ということで、まだ今日簡単にその部分だけ事務局の方にお願ひしてコピーを作ってきましたが、今年度、少しこれに肉付けするための会合を、何回かやる予定にしています、うまく活用していただくような、検討材料にさせていただければ大変ありがたいなと思っております。よろしく申し上げます。

事務局：大会ボランティアに関しましては、私どもの組織委員会の中で、人事のセッションが行っております。12月にボランティア戦略というものを策定しまして、そこに、8万人規模のボランティアということで位置付けられています。一方で、こちらに記載されている中高生のボランティアに関しましては、その8万人の外数で、私ども持続可能性部と、人事のセッションとで連携して、中高生を対象にしたボランティアのあり方を検討しております。今日いただいたものを見させていただいて、改めて対応させていただければと思います。

崎田座長：ありがとうございます。検討状況などの状況設定とかについて色々ご意見などがあれば、早目に教えていただければ、こちらも、そういう流れにうまく、皆さんに活用していただけるように、レガシーとして残していただけるような形で検討していきますので、また情報あればよろしく申し上げます。ありがとうございます。

ということで、お話してまいりました。その他というところで、まず私から1件情報提供させてもらいましたが、皆様から今日何か是非お話をしておきたいこととか、コメント等があればと思うのですが。いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。それでは、今日の会合は皆さんからいろいろと意見をいただきましたので、それを基にまた次回に続けていきたいと思えます。検討ということではこれで締めさせていただきますので、事務局のほうにお返しします。どうもありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。次回の日程については早いうちにと考えておりまして、22日を念頭に置いているところでございます。また日程については崎田座長と相談しながら決めていきたいと思えますので、次回もよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

以上